

# 担い手通信

JAバンクは地域の担い手を応援します

2

## 今月の話題

作業時間最大4割減

# 作付け1.5倍可能

### 農研機構 ロボット農機の稲作導入

**農** 研機構は、ロボットトラクターやロボット田植え機などのスマート農機を稲作に導入することで、耕起、田植え、収穫の作業時間を最大4割削減できることを確認しました。その省力分の労力で、実証した法人では、1.5倍の120<sup>ha</sup>への作付け拡大が可能となり、生産コストが現状から4%減の60<sup>万円</sup>当たり9064円を実現しました。



2台同時で耕起作業するロボットトラクター  
(千葉県横芝光町)

内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)事業の一環。同事業で

開発したロボット農機や、自動水管理システムを全国4法人に導入し、2017年作から作業性を調べています。

千葉県横芝光町で「コシヒカリ」「ふさがね」などを作付けする法人では、自動運転が可能なたらクター、田植え機、コンバインと、気象データを基に収穫適期や病害対策を示す栽培管理

支援システムを導入しました。トラクターは、有人機と無人機の2台同時作業で耕起や肥料散布、代かきなどを行いました。自動化により、耕起と収穫作業で3割、田植え作業で4割の作業時間を削減できました。

17年作は、法人には4人の常時雇用者がいて、1人当たり年間農業所得は790万円と、導入前に比べて45%増えました。

その他の法人でも、自動水管理システムで水管理の時間を7割減らせるなど、省力効果が出ているといえます。

18年作も試験し、麦・大豆との輪作や、水稻の乾田

直播(ちよくは)栽培での効果を調べています。

同機構は「地域や法人の構成などで最適なシステムの組み合わせは変わる。実証試験で改善点や解決策を見つけていく」と話します。

今が旬  
この言葉

クラウドファンディング  
(CF)

クラウド(人々)とファンディング(資金調達)を組み合わせた造語で、インターネットを通じて、多くの人から資金を調達して事業を行う仕組みです。2017年度のCFの市場規模は前年度の2.3倍に拡大。農業の分野では、6次産業化や耕作放棄地活用などさまざまな分野で活用されています。交流の場や特産品づくりなどを通して、地域を応援したい都市住民と農山村を結び付けるなど、地域活性化の手段の一つとして期待が高まっています。

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介しています。

(日本農業新聞より)

### ■JA松阪

#### 貯蔵ミカンの厳選出荷確認

JA松阪青島みかん部会と高糖系みかん部会は1月中旬、2日間に分けて、貯蔵ミカンの貯蔵庫巡回を行った。合わせて18人が参加した。JA職員が測定器を使い、貯蔵ミカンの糖度と酸度を測定。貯蔵庫の湿度などの状態を確認。生産者らは他の貯蔵庫の様子に興味深そうに見ていた。今年度産のミカンは気候に恵まれ豊作。糖度も高く酸とのバランスの良い仕上がり。しかし台風の影響で傷の付いた果実が多い傾向で、JA職員は「選別をしっかりとしてほしい」と呼び掛けた。(2019/1/22 ワイド1東海)

### ■JA伊勢

#### ブドウ収量増へ 剪定の基本確認

JA伊勢ぶどう部会は12月、玉城町の園地でブドウの剪定(せんてい)講習会を開いた。部会員11人が参加し、県中央農業改良普及センターとJAの担当者の指導で、実演を交えながら剪定や整枝の説明を受けた。JA管内では部会員16人が、同町と伊勢市城田地区合わせて約3ヘクタールで「デラウェア」や「巨峰」を中心に栽培している。2018年は、猛暑の影響で収量が減少した。その状況を踏まえ講習会では、より安定した結実、収量、果実品質の確保につなげようと基本を再確認した。(2019/1/6 エリア東海)

### ■JA鳥羽志摩

#### JGAP認証取得 経費減も期待

JA鳥羽志摩が経営する長沢育苗施設は12月、GAP(農業生産工程管理)の日本版であるJGAP認証を取得した。今回認証を受けたのは、イチゴの収穫までの工程と、特産物「きんこ」の原料となる隼人芋の苗の栽培工程。JGAPを取得したことで、労働者の安全確保、農作業時の事故などのリスク低減、農薬・資材などのコスト削減が期待される。2019年にはイチゴの収穫工程のJGAP取得を目指す。営農指導販売課の竹内隆典課長は「これを機会に農業経営の運営に万全を期したい」と話す。(2019/1/23 ワイド2東海)

## ニホンザルによる農業被害

### 西 日本を中心に多発

しているニホンザルによる農業被害。頭数が多く加害レベルが高い群れは、追い払い等の被害対策だけでは十分な効果が得られない場合がありま

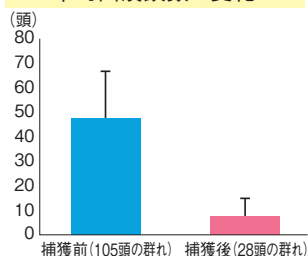
三重県伊賀市に生息する加害レベルが高い105頭のサル群を、クラウドま

るみえホカクン(ICT)による檻罠の遠隔監視・操作装置と大型箱わなにより捕獲し、1年間で28頭の群れへと大幅に縮小しました。その後、被害を受けていた集落住民へ調査を行ったところ、1回あたりの平均出沒頭数はおよそ50頭から8頭へ、集落での滞在時間も120分から15分程度に低下しま

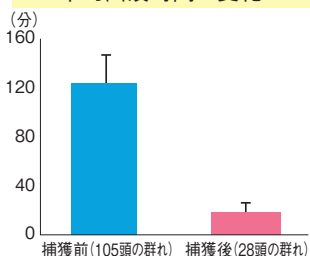
した。また、サル群の行動範囲面積が半減し、農地の被害程度が大幅に減少する効果がみられました。なお、捕獲によるサル群の縮小等を行う場合には、市町単位等で群れの行動範囲や加害レベルを把握し、これに基づいた群れ単位の管理計画を定め

たうえで実施する必要があります。また、縮小したサル群れに対しても、追い払いや侵入防止柵などの被害対策を継続して実施することで、さらなる被害軽減や効果の持続が期待できます。

平均出沒頭数の変化



平均出沒時間の変化



お問い合わせ先 三重県農業研究所 地域連携研究課 ☎ 0598-42-6356

明日の農業を担うみなさまへ  
JAバンクは地域農業を応援します!

- ◆トラクターなどの農業用機械の購入資金
- ◆栽培用ハウス・畜舎など農業用施設の建設資金
- ◆その他農業経営に必要な資金

# 農業を営むすべての方に

## 農業経営資金

対象期間/平成30年4月2日～平成31年3月29日

農業者の皆様のご負担金利を**5年間軽減**いたします。

JAバンク利子補給制度(3年間)と  
当JA金利引き下げ(2年間)措置の対象となります。  
利子補給および金利引き下げの適用イメージ～変動金利型の場合～

|          |   |                    |   |         |
|----------|---|--------------------|---|---------|
| (お借入金利)  | - | (JAバンク利子補給・金利引き下げ) | = | 実質年0.2% |
| 変動金利 年1% |   | 年0.8%              |   |         |

詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>  
平成31年1月現在

※JAバンク利子補給・当JA金利引き下げ後のご負担金利は0.2%を下回らないように調整されます。  
※イメージは実際とは異なる場合がございます。詳しくはお近くのJAバンクまでお問い合わせください。  
※JAバンク保証料助成により、実質保証料が0円となります。

# 0円

実質保証料